

小児科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

小児及び小児疾患の特異性・普遍性を理解し、小児医療を適切に行うために必要な基礎知識・技術・態度を身につける。

II 行動目標 (SBOs)

1. チーム医療の構成員としての役割を理解しながら、適時指導医及び上級医と相談し適切な診療を行える。
2. 病歴、理学的所見で得た情報から、鑑別診断を列挙し必要な検査を計画できる。
3. 患者・家族に鑑別診断と検査の計画及びその必要性を説明できる。
4. 検尿、検便、血液生化学、免疫血清検査、髄液検査などの基本的検査成績が理解できる。
5. 小児夜間急病センターにおいて、指導医及び上級医の指導のもと、小児の救急疾患に対し迅速で適切な診断、救急措置、治療ができる。

III 方略 (LS)

1. 指導医または上級医とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 指導医・上級医のもとで、外来及び小児夜間救急センター患者の診察、検査指示を行う。
4. カンファレンスに参加し、積極的に討議する。

IV 経験すべき疾患

1. 発熱疾患（上気道炎、気管支炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎など）
2. 単純性熱性けいれん
3. 呼吸窮迫を伴う疾患（喘息、クループ、細気管支炎、肺炎など）
4. 3か月未満の乳児の発熱疾患（上部尿路感染症、細菌性髄膜炎など）、川崎病、膠原病など
5. 複雑性熱性けいれん、無熱性けいれん（てんかんなど）、意識障害・けいれん重積（脳炎・脳症・IDDM など）
6. レスピレーター管理を要する呼吸器疾患（喉頭蓋炎、喘息重積発作、RSV肺炎など）
7. 外科的治療を要する可能性のある疾患（腸重積、肥圧性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病など）
8. 小児のCPA（SIDS、虐待の疑いなど）

V 評価(EV)

1. EPOCによる評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。（浮腫、リンパ節腫脹、発疹、発熱、頭痛、動悸、呼吸困難、咳・痰、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常、血尿、呼吸器感染症、食道・胃・十二指腸潰瘍、腎不全、糖代謝異常）

VI 小児科研修内容詳細とスケジュール

岐阜市民病院小児科研修医研修要項を参照